

連載企画

自動車リサイクル業界を担うホープ(11)

名前: 及川 晋也 (おいかわ じんや) (35歳)

所属: 株式会社サンケイ商会 (岩手県胆沢郡)

担当: 生産管理部

特技: 自動車の整備及び解体全般

MBTI: 擁護者型 (ポジティブで困難が起きても前向きに対応方法を検討し、他者への気配りも忘れないため、周りからの信頼も厚く頼られるタイプ)

— 仕事で誰にも負けない部分

トヨタ86の解体実績

— この業界の魅力を一言で

あらゆるメーカー、年代の車を触れる機会があり、やった分だけ自分の経験値になること

— 将来の業界への期待

一般の人がリサイクル部品を買いやすい環境になること

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

- 【連載企画】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 —— P.1
- 【新連載予告】自動車リサイクル業界の転換点を生き残る —— P.2
- 【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解くPart 10 —— P.3
- リサイクル推進会議報告 / 未来部会勉強会開催報告 / JAERA会議報告 — P.4
- 12月新車販売・使用済自動車発生台数 —— P.5
- 鉄スクラップ最新情報 —— P.6
- 行事予定・お知らせ / 編集後記 —— P.7

巻頭言

 広報部会
小宮山 敬仁

花粉症真っ盛りですが、みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

私も数年前まで、この時期は鼻呼吸ができず、食事の時は、窒息しそうになりながら咀嚼していました。

花粉対策として、ありとあらゆることをしました。鼻腔を焼く手術、塩水で鼻うがい、花粉に効くとされる薬・食べ物・飲み物はほぼすべて試してきましたが、いっこうに良くなりませんでした。

ところが、数年前「あること」をきっかけに、症状が劇的に改善され、今年に至っては「花粉ってなあに?」というくらい、全く症状が出なくなりました。その「あること」とは?

「体に良くないと思われるものを取り込まない」です。勿論100%ではありませんが、お酒・ラーメン・アイスクリーム・マック・揚げ物等をほとんど口にしなくなりました。あまりにも凝り過ぎて、どれが花粉症対策の決定打になったかは分かりませんが、「良いものを取り入れてダメなら、悪いものを遮断する。」花粉症以外でも活用できるものかもしれませんね。

02

新連載予告

—自動車リサイクル業界の転換点を生き残る—

自動車リサイクル業界は今、大きな変革の波に直面しています。新車販売台数の減少、中古車輸出台数の増加や使用済自動車（ELV）発生台数の減少など、解体業界の構造変化が重なり、これまでのビジネスモデルの見直しを迫られる状況にあります。

広報部会では現在の状況を読者の皆様に知ってもらい、今後の業界の動向や自社経営の参考となるよう、国際的な中古車流通や自動車リサイクルなどを研究している北海学園大学の浅妻裕教授と意見交換を行い、次号から新連載を掲載することとなりました。

浅妻先生のご紹介

浅妻 裕（あさづま ゆたか） 北海学園大学経済学部教授

環境経済学・経済地理学・静脈産業論を専門とし、主に中古車や中古部品の国際流通や関連産業の立地について研究をされています。代表的な著作として、『自動車リユースとグローバル市場』（成山堂書店、2017年、福田友子・外川健一・岡本勝規と共著）など。



浅妻 裕先生

新連載予告「—自動車リサイクル業界の転換点を生き残る—」

第1弾：ELV台数の減少とその背景

近年、日本国内での使用済自動車（ELV）の台数が減少しています。その主な要因の一つが、新車販売台数の減少です。国内市場では経済状況の影響や少子高齢化や若年層の車離れが進み、自動車の需要が縮小しています。

一方で、中古車の輸出台数は増加傾向にあります。特にアフリカ、中東、東南アジアなどの新興国市場では、日本の中古車の人気が高まっており、良質な中古車が国内にとどまることなく海外へ流出する傾向が強まっています。この結果、日本国内でのELV発生台数が減少し、解体業者の経営に大きく影響を及ぼしています。



第2弾：解体業界の変化と課題

こうした状況下で、解体業界も大きな変革の時期を迎えています。2005年の自動車リサイクル法導入時に匹敵するほどの業界変化が生じており、新たなビジネス環境への適応が求められています。

特に注目すべきは、「移民系企業」の増加です。都市部を中心に、外国籍の事業者が中古車流通や解体業に参入するケースが著しく増加しており、一部の地域では市場の構造が変化しています。この変化が業界にもたらす影響は大きく、公正な競争環境を維持するためには、言語的・文化的障壁を乗り越えコンプライアンスを徹底することが不可欠です。業界全体として不正処理、不正取引の排除や適正な手続きの遵守が求められるなか、市場の透明性を高め、持続可能な産業に発展していくことが重要です。

第3弾：サーキュラーエコノミーに向けた動向と解体業界の課題

近年、持続可能な社会を目指す「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」の概念が注目を集めています。自動車リサイクル業界においても、部品や素材の再利用を促進し、廃棄物を最小限に抑える取り組みが求められています。

今後は部品のリユースのみならず、今まで回収していなかった素材などの可能性をより追求する必要があります。例えば、ELV由来の樹脂など今後リサイクル材として着目を浴びつつある素材も出てきており、そこでは適正な価格での流通システムの構築も課題となっています。今後、自動車リサイクル業界が持続可能な発展を遂げるためには、技術革新とビジネスモデルの進化が不可欠です。



今号では特集の概要をご紹介しました。次号からの掲載にご期待いただき、業界の未来をともに考えていけたらと思います。

03 ▶ 【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解く (Part10)

「自動車リサイクル資源回収インセンティブ制度特設サイト」について

資源回収インセンティブ制度（本制度）について“正しい理解”をテーマとした特集は、いよいよ最終回となりました。今回は「自動車リサイクル資源回収インセンティブ制度特設サイト」についてご紹介をいたします。

【自動車リサイクル資源回収インセンティブ制度特設サイト】

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（JARC）^{ジャルク}は、皆様が普段から利用している自動車リサイクルシステムの運営や自動車ユーザーからお預かりしたリサイクル料金を、使用済自動車としてリサイクルされるまでの間、管理や運用を行っている団体で、自動車リサイクル資源回収インセンティブ制度特設サイトを開設しています。

この特設サイトでは、本制度に関する解説動画や、国のガイドライン、制度に関するQAなど全ての情報が集約されています。開始予定の2026年4月に向けて随時情報がアップデートされていきますので、解体事業者の皆様もぜひこの特設サイトを活用していただき、今後の情報収集や制度参画へのご参考にさせていただきます。



特設サイトはこちら ▶

<https://www.jarc.or.jp/shigenkaisyu/login/>

※登録は特設サイト最下部の「事前の参加登録する」をクリック

特設サイトのコンテンツ

① 説明動画

本制度の仕組みや目的、対象資源について分かりやすく解説。

② 要綱・マニュアル

事業者が本制度に参加するための具体的な要綱・マニュアルなど（今後アップロード予定）

③ QA集

本制度に関する質問と回答を掲載（質問受付もしております）

④ 参考資料

本制度に関するチラシや制度参画の参考となる過去の実証事業[※]データ

※公益財団法人自動車リサイクル高度化財団による助成事業



【本制度のチラシ】

登録は簡単!今すぐ始めよう

コンテンツの（無料）には事前の登録が必要となります。簡単な登録となりますので、まずは上記の特設サイトにアクセスして登録していただき、最新の情報についてはこの特設サイトで情報を取得してください。登録者へは、情報が追加・更新される都度、メールにて案内が展開されます。

終わりに

全10回にわたり「資源回収インセンティブ制度」を正しく理解するためのポイントを解説してきました。本制度は、自動車解体業を営む全ての皆様をはじめ、使用済自動車の適正処理と再資源化に取り組むすべての関係者が制度の意義を理解し実践することが求められてきますので、この特集がその一助となれば幸いです。

本制度に参画することで、環境保全や資源循環への貢献はもちろんのこと、事業の発展にも繋げることができると考えています。JAERAとしても引き続き情報収集と、自動車解体業界の皆様への情報発信を行ってまいります。ありがとうございました。

04

自動車リサイクル推進会議

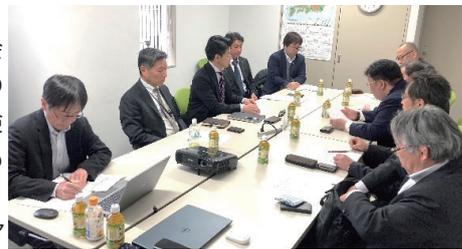
—自動車静脈産業コンソーシアムAVICに焦点—

共通の目的や基準のもとで連携・協力することで一致

日本自動車リサイクル部品協議会（リ協）、日本トラックリファインパーツ協会（JTP）、東日本自動車解体処理協同組合、日本自動車リサイクル機構（JAERA）の4団体が集まり、自動車解体業界が抱える課題解決や情報共有、業界の方向性の検討などを行う“自動車リサイクル推進会議”が2月18日（火）JAERA会議室で行われました。

2年ぶりに開催された本会議では、JAERAが掲げる自動車静脈産業コンソーシアム「AVIC（Automotive Venous Industry Consortium）」について意見交換が行われ、「大きな変化が求められる解体業界において、今後各団体の連携が必要不可欠となってくる。そのため業界の結束を強化する方策としてAVICという業界組織が一枚岩となる構想を打ち立てた」とJAERA石井代表理事の説明で始まりまし

た。この構想に関わる4団体それぞれの立場から意見が交わされ、各団体が個別に活動するのではなく、共通の目的や基準のもとで連携・協力することで、業界の健全な発展が実現できるという点に意見が一致し、今後もAVICについて前向きに協議・検討を重ねることになりました。



会議の様子

Check!

自動車リサイクル業界の更なる発展に向けた一歩が踏み出されたところです。AVICについては、今後もニューズレターで取り上げていきます!!

05

JAERA 会員限定WEB勉強会

—過去最高の参加者数を記録—

2月19日（水）、未来部会主催のJAERA会員限定WEB勉強会が開催され、過去最高となる71事業所から131名の参加がありました。新入社員を対象とした「自動車リサイクル入門」というテーマで、自動車リサイクル法が出来るまで背景や制度設計について触れ、最近の使用済自動車減少傾向やその影響、さらに今後の業界の展望についてJAERA阿部専務理事より解説が行われました。

参加者からは「日々の作業が法律のなかでどのような役割を果たしているか理解できた」、「業界の現状を知ることで、今後の自動車リサイクルのあり方について考えるキッカケになった」などの声が集まり、大変好評を博していました。未来部会吉岡部会長は、「今後もJAERA会員の皆様にとって有益な勉強会などを企画していく」とのことです。次回の企画もぜひご期待ください。



勉強会の1コマ

06

JAERA 会議報告

関東ブロック会議 —2月5日（水）東京都港区—

機構本部から阿部専務理事、木内副代表理事が出席し、時間いっぱい意見交換が行われた。特に関東では外国人事業者の増加が著しく、仕入競争では到底太刀打ち出来なくなっているといった情報から、各都県独自の取り組みを模索している動きが目立った。

沖縄ブロック会議 —2月7日（金）沖縄県沖縄市—

石井代表理事が出席し、JAERAの今後の活動方針や方向性について説明が行われた。また、沖縄ブロックが抱える独自の課題や問題提起も行われた。



近畿ブロック会議 —2月14日（金）大阪府大阪市—

機構本部から、石井代表理事が出席し、JAERAの活動方針の説明が行われた。各支部からは、慢性的な在庫台数不足と価格競争の激化から早期の手だてが必要だといった意見が相次いだ。



岩手県支部 —適正処理地域講習会を開催—

2月14日（金）に適正処理に関する知識と理解を深めることを目的とした適正処理地域講習会を開催し、10名の参加者のなか、自動車再資源化協力機構の濱野様にご講演いただいた。



07

2025年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業
1月出荷状況と今期累計

上段：1月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス20	プリウス30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
19	7	27	0	0	50	0	1	2
73	107	433	4	1	464	5	8	18

SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品A~C	合計
2	0	5	0	0	0	0	11	105
9	7	20	4	6	0	0	153	1243

2023年度の結果はこちら ▶

<https://elv.or.jp/index.php?itemid=1906>

08

1月新車販売・使用済自動車発生台数

2025年1月度 新車販売台数 376,258台 (前年同月比112.4%)

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会



新車販売の月別推移 (2025年 2024年 2023年)

過去の1月新車販売台数推移

年累計	台数	前年比 (%)
2025年 (1月まで)	376,258	92.5
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7

2025年1月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター



使用済自動車引取件数の月別推移 (2025年 2024年 2023年)

引取件数	
1月	189,869件 (前年同月比96.9%)
フロン回収工程	
1月	170,058件 (前年同月比96.2%)
解体工程	
1月	197,877件 (前年同月比96.9%)

09

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

2月第4週（18日）の鉄スクラップ動向



2月18日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	39,500 ~ 40,000	様子見
	南関東	39,500 ~ 40,000	様子見
	浜値	38,500 ~ 40,000	堅調様子見
名古屋		39,000 ~ 40,500	軟調様子見
関西	大阪	41,000 ~ 42,500	強含み
	姫路	41,000 ~ 42,000	様子見

米国コンポジット価格が急上昇 No.1ヘビー 356.67ドル

2月17日付の米国No.1ヘビー・コンポジット価格は、前週比33.34ドル高の1Lトン当たり356.67ドルだった。1月13日付で同4.00ドル高、21日付で同16.00ドル高と値上がり続け、今回の再上昇で直近最安値の1月6日付の303.33ドルからは合計53.34ドル上昇した。

地区別価格は以下の通り(価格、前週比)。◇ピッツバーグ(375.00ドル、40.00ドル高↑)◇フィラデルフィア(330.00ドル、20.00ドル高↑)◇シカゴ(365.00ドル、40.00ドル高↑)

ブッセリングも急騰、前週比46.67ドル高の450.00ドル

2月17日付の米国ブッセリング・コンポジット価格は、前週比46.67ドル高の1Lトン当たり450.00ドルだった。前週10日付はクリーブランドの10.00ドル上昇により同3.33ドル高の403.33ドルとなり、直近2週の上昇幅の合計は50.00ドルに達した。同価格は1月13日付で同4.00ドル高、21日付で同16.00ドル高の400ドルと、2週で20.00ドル上昇し、約7カ月ぶりの400ドル台に乗った。その後、横ばい推移を挟んで先週から今週にかけて急騰した。

地区別価格は以下の通り(価格、前週比)。◇ピッツバーグ(445.00ドル、50.00ドル高↑)◇クリーブランド(455.00ドル、40.00ドル高↑)◇シカゴ(450.00ドル、50.00ドル高↑)

関東 電炉買値は横ばい、浜値は堅調

関東鉄スクラップ市場は、減産が続く電炉メーカーの買い気が冴えず様子見商状となっている。南関東では18日から関東鉄源のH2共同荷役(1万5000トン)が始まることもあり電炉勢は静観姿勢を維持。東京製鉄宇都宮は入荷制限を継続中。一方、シッパーには引き合いを強める動きがある。H2炉前実勢価格は39,500 ~ 40,000円中心。H2浜値は38,500 ~ 39,500円中心、高値40,000円見当。電炉買値をやや下回るものの堅調だ。

東海 域内需給緩く軟調感残る相場展開

東海市場の鉄スクラップ市況は様子見の推移が続いている。東海主要電炉7事業所の2月の粗鋼生産予定量は38万300トン。前年同月実績を10万1200トン(21.0%)下回る生産計画で、軟調感が残る要因のひとつだ。西日本など一部相場が反発に転じたものの、東海電炉は購入価格を据え置いたままで、これまでの購入姿勢を維持している。H2炉前実勢価格は39,000 ~ 40,500円中心。1月28日から約3週間にわたって横ばいで推移中だ。

大阪 荷動きに対し不透明感が残り強含み

大阪地区の鉄スクラップ市況の気配は強含みだ。3連休を前に荷動きに対する不透明感が残ることに伴い、湾岸シッパー筋の中には電炉への対抗価格を打ち出すところがある。このため電炉側にとっては、入荷確保に向けて引き合い強化を迫られやすい展開で、ヤード業者筋には強含みを予想する声が多い。H2炉前実勢価格は、大阪地区が41,000 ~ 42,500円中心。姫路地区が41,000 ~ 42,000円中心で推移している。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、2月18日午前時点のもの)

10

お知らせ 日本自動車工業会 日本自動車輸入組合より

損傷した電気自動車・ハイブリッド自動車を取り扱う事業者の皆様へ

損傷した電気自動車・ハイブリッド自動車等の取扱い時の主な注意事項を公開しております。改めての注意喚起となりますが、ぜひ下記 URL よりご確認ください。

また、電気自動車・ハイブリッド自動車を解体処理する場合の、各種マニュアルなどについても併せて一覧として掲載しております。こちらもご確認ください、指定の手順に従って安全な取外しをいただくようお願いいたします。

詳細は[こちら](#)（自動車再資源化協力機構 HP 内）

2024年3月14日 改訂
一般社団法人日本自動車工業会
日本自動車輸入組合

損傷した電気自動車・ハイブリッド自動車を取り扱う事業者の皆様へ

損傷した電気自動車・ハイブリッド自動車等の取扱い時の主な注意事項

1. 損傷した電気自動車・ハイブリッド自動車を搬送（運搬・保管等）する場合
消防庁可燃物搬送規程の取扱いの趣旨は違反の恐れがあります。

(1) 燃焼の防止のため、以下を行ってください。
 ①必ず熱線手袋を着用してください
 ②オレンジ色の高電圧ケーブルには絶対に触らないでください

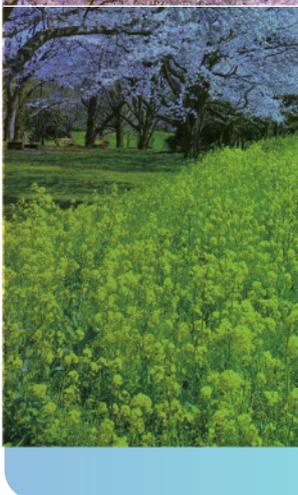
(2) 各種事故防止の観点より、以下を行ってください。
 ①防護めがねを着用してください
 ②マスクを着用してください

(3) その他注意事項（※1）/安全靴等通常の現場作業に必要な装備は必須
 ①バッテリーを破壊させるような衝撃を与えないでください
 ②液漏れが疑われるバッテリーはよく乾燥させてください

2. 電気自動車・ハイブリッド自動車を解体処理する場合

電気自動車・ハイブリッド自動車を搬送する自動車メーカー等のホームページ（別紙一覽表ご参照）、又は自動車再資源化協力機構（自再協）のホームページから車種別の取外し等に関する各種マニュアルを確認し、指定の手順に従って安全な取外しを行ってください。

編集後記



福島第一原子力発電所で、処理水の放出によって空になったタンクの解体作業が始まりました。解体後には、三号機の燃料デブリを取り出すための施設が建設される方針ですが、第一原発の廃炉完了は2051年を目指しているとのことでもまだまだ長い道のりです。

原子力は発電、放射線は医療、金属検査などで役に立っている一方、兵器にも利用されるなど、使う人によって全く異なる側面を持ちます。

法務省の資料によると、国内の殺人事件の約3分の1は包丁が凶器として使用されています。この包丁を最も大切なパートナーとしている料理人の方にしてみると何と悲しいことでしょうか。私たちが毎日便利に乗っている車も、時として事故などで凶器になる場合があります。私の住む地域では、残念ながらこのところ飲酒運転で検挙されるドライバーが増え、その運転によつての事故も後を絶ちません。本来、自動車自体は非常に良いものなのですが、凶器になってしまうかどうかは、最終的に運転する人次第なのです。

ところで今更ですが、ドライバーから酒の匂いがしたらエンジンがかからない車なんて出来ないのでしょうか。

広報部会長 田村 幸男

3 月の主な行事予定

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

- 3日(月) | J-FAR（資源回収インセンティブ実装事業）最終報告会（WEB）
| J-FAR（ガラスリサイクル）最終報告会（WEB）
- 5日(水) | 第3回ブロック長会議（対面・WEB）
- 6日(木) | 第12回広報部会（WEB）
- 10日(月) | 東北ブロック会議（対面）
| J-FAR（エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり事業）最終報告会（WEB）
| J-FAR（異常電池適正処理）最終報告会（WEB）
- 11日(火) | J-FAR（エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり事業）定例会（WEB）
- 18日(火) | 第19回業界界況調査（3/31まで）
- 28日(金) | 中部北陸ブロック会議（対面）

